

インマヌエル中目黒キリスト教会
聖日礼拝2007.7.8.

メッセージ

ローマ書連講37

『互いにとって肢』

ローマ人への手紙12章3-8節

竿代照夫牧師

聖書朗読

新約聖書

ローマ人への手紙12章3～8節

3 私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。」
だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってははいけません。いや、むしろ、神がおのおのに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。

4 一つのからだには多くの器官があって、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、

5 大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。

6 私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。

7 奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教えなさい。

8 勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行なう人は喜んでそれをしなさい。

ローマ書連講37

メッセージ

『互いにとって肢』

ローマ人への手紙12章3～8節

竿代照夫牧師

主テキスト：

「大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。」

(ローマ12:5)

はじめに：

教会は、私達の間関係の基礎

A. 思い上がらず、慎み深くあれ（3節）

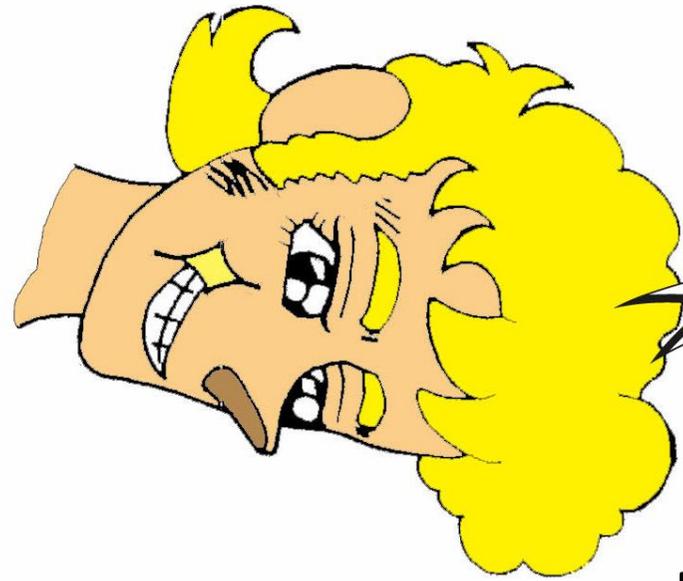
1. （使徒職という）恵みに基づく勧め

2. 思い上がるな（ナルキッソスの例）

図1

3. 自分の立場を弁えよ：

「各自に分け与えられた信仰の量りに
応じて」



ナルキッソス



図1

えだえだ

B. 肢々は互いに機能が異なる（4-5節）

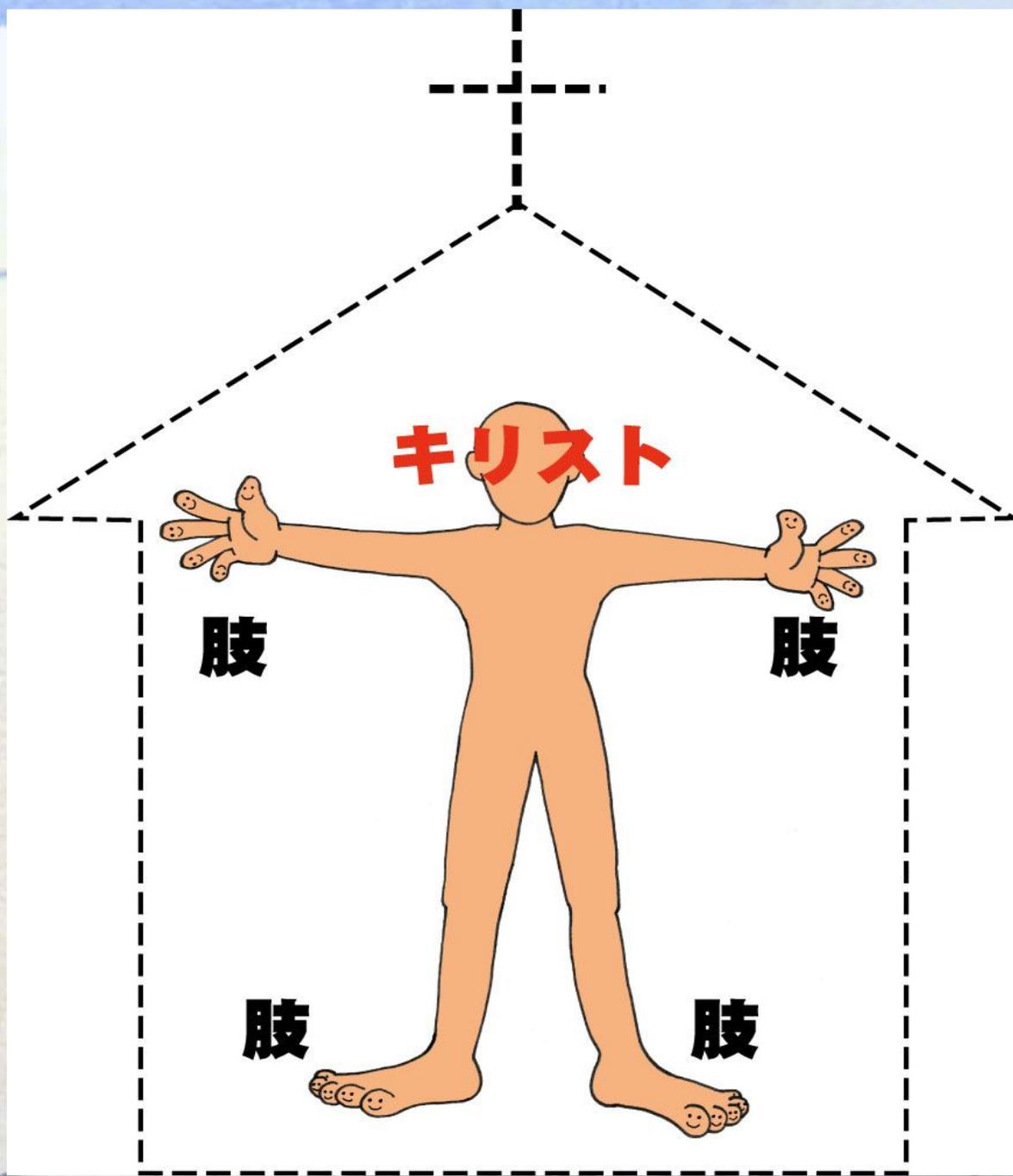
たと

1. 教会は、人体に譬えられる（図2）

2. 教会は、一体である：

既に与えられている一致を守れ

（エペソ4:3-5）



キリスト

肢

肢

肢

肢

図2

3. 肢は沢山あって、互いに異なる

①私達はみんなキリストの体（教会）の
肢である

②その意味で私達は一体である

③肢々の働きは相互に異なる

④私達は互いにとって肢である
(互いを必要とする)

4. 同一性(uniformity)でなくて一致
(unity) ; 斉唱でなくて合唱

5. タラントの過小評価も過大評価も
いけない

C. 異なる機能を十分に発揮しよう (6-8節)

1. 賜物の源

- ・ 与え主は神
- ・ 恵み（カリス）の延長としての
賜物（カリスマ）

2. 賜物の内容

- ① 預言：神の言葉を、神に代わって語る
- ② 奉仕：信徒同士の必要のために仕える
- ③ 教え：
信徒の立て上げのためにレッスン

④ 勧め：よりインフォーマルな勧め、
励まし、慰め

⑤ 与える：信徒の必要に応じて支え、
与える

⑥ 指導：教会の行政・運営面でのリー
ダーシップ

⑦ 慈善：教会外の人々に対する社会的
活動のことです。

2. 積極的な活用

- ① その信仰に応じて
- ② 惜しまずに
- ③ 熱心に
- ④ 喜んで

主のために賜物をフルに活用する

終わりに

1. 自分の賜物を感謝して、主のために使おう
2. 他人の賜物の故に感謝して、主の聖名を崇めよう